

広く防災に資するボランティア活動の促進に関する検討会

中間整理（案）

平成28年3月16日

1



設置趣旨・目的

- 趣旨
 - 東日本大震災の被災地では、多くの国民がボランティア活動に参加し、その活躍が注目された。一方、これまでの災害ではみられなかった課題も明らかになった。
 - このため、想定されている大規模災害に備えて、広く防災に資するボランティア活動を促進するために、様々な活動の現状と課題の整理及び環境整備の方策等について検討を行う「広く防災に資するボランティア活動の促進に関する検討会」を開催する。
- 目的
 - 広く防災に関するボランティア活動全般について、現状、課題、活動の一層の活性化等に関する検討を行い、提言する。
(検討事項例)
 - 日頃からの様々な担い手の活動と支援の仕組みづくり
 - 被災地における行政とボランティア活動の担い手との連携
 - 様々なボランティア活動における活動費用の確保方策 等

3



委員名簿

栗田 暢之

認定特定非営利活動法人 レスキューストックヤード代表理事

佐甲 学

全国社会福祉協議会 全国ボランティア・市民活動振興センター所長 地域福祉部長

菅 磨志保

関西大学社会安全学部准教授

高橋 良太

社会福祉法人 中央共同募金会企画広報部長

室崎 益輝

兵庫県立大学 防災教育センター長) 【座長】

山崎 水紀夫

高知県立公立大学 法人高知県立大学 地域連携課長

山ノ川 実夏

MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社 人事・総務部部長

(50音順・敬称略)

4

検討会の進め方

- ・ 会議は、平成27～28年度の2カ年の期間とする。
- ・ 平成27年度は、広く防災に資するボランティア活動における課題など幅広く出しあい、中間整理をとりまとめる。年度内3回を予定。
- ・ 平成28年度は、優先度の高い課題については環境整備や対策の方向性をまとめるほか、広く防災に資するボランティアの担い手拡充、活動の促進につながるような内容を想定。

(検討事項例)

- 日頃からの様々な担い手の活動と支援の仕組みづくり
- 被災地における行政とボランティア活動の担い手との連携
- 様々なボランティア活動における活動費用の確保方策 等

5

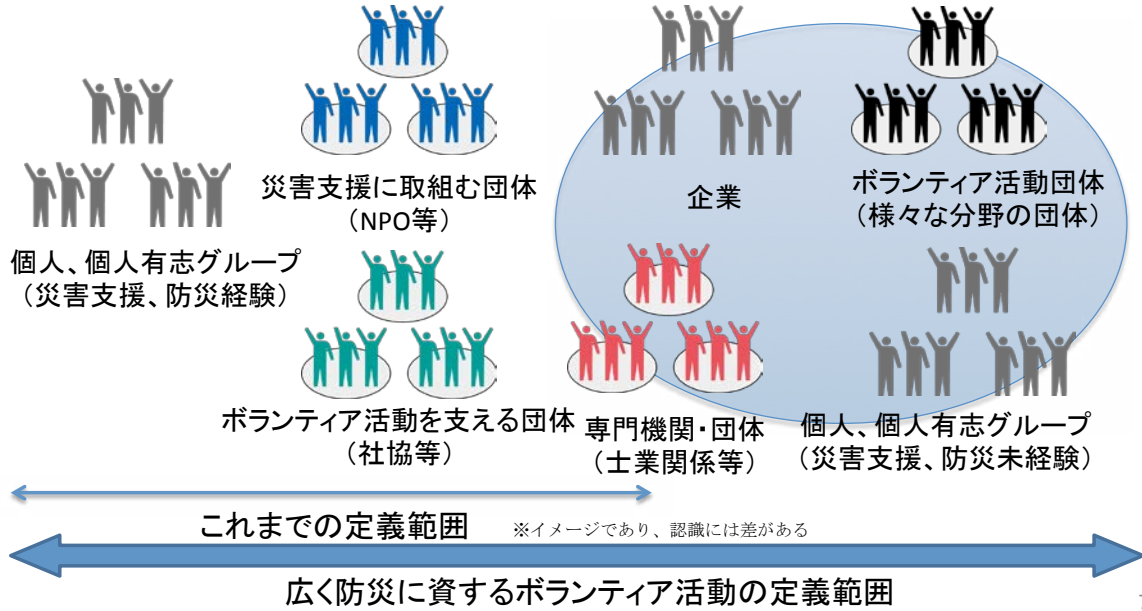
スケジュール

	内容
第1回 平成27年12月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議設置の目的、スケジュール説明 ・ 委員の発表（取組事例や課題の提示） ・ 広く防災に資するボランティア活動の課題に関する意見交換
第2回 平成28年2月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員の発表（取組事例や課題の提示） ・ 広く防災に資するボランティア活動の課題に関する意見交換
第3回 平成28年3月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間整理案の説明 ・ 広く防災に資するボランティア活動の課題に関する意見交換
	<p>▼ 課題等の中間整理のとりまとめ</p>
平成28年度 ※詳細は、後述	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員、ゲストスピーカーの発表 ・ 関連調査の進捗共有・結果報告 ・ 課題解決の方向性や解決に資する取組の検討 <p>※10回程度を想定</p>
	<p>▼ 広く防災に資するボランティアの担い手拡充、活動の促進策等について政策提言のとりまとめ</p>

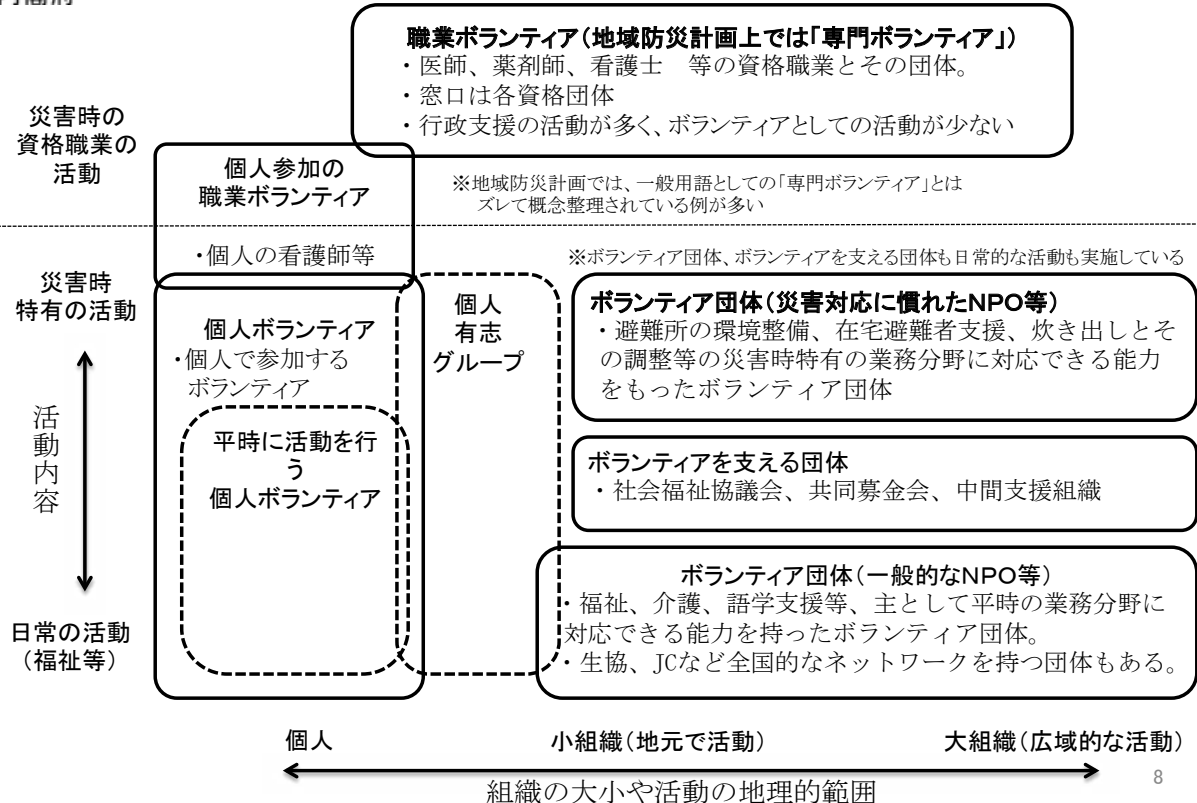
6

広く防災に資するボランティア活動の定義

日頃から行われているさまざまなボランティア活動や地域活動、
あるいは企業活動等において、防災の視点が入り入れられた活動などを、
『広く防災に資するボランティア活動』として、射程を広げて検討



参考：災害時の「ボランティア」に関する主体面からの整理



【平時における課題】 ※ダイジェスト これまで検討会で指摘があったもの

担い手	課題
個人ボランティアに関する観点から	<ul style="list-style-type: none"> ● 日頃、地域に関わっている大学生や若者に対する防災教育が必要である。 ● ボランティア活動への参加を希望する個人が参加しやすい、環境や条件が不明確。
ボランティア団体に関する観点から	<ul style="list-style-type: none"> ● 資金調達できる、助成金に頼らないノウハウ、知見が必要。助成金がなくても継続していくためのサポートも必要。 ● 東日本大震災において、資金分配がどのように行われたのか検証し、今後の災害におけるしきみを考える必要がある。 ● 中間支援組織(NPO支援センター)が防災や災害支援に関わるよう働きかけが不十分。 ● 「福祉」「子育て」などのボランティア活動に「防災」の視点を取り入れるような働きかけが不十分。
災害VC運営の観点から	<ul style="list-style-type: none"> ● 内閣府、社会福祉協議会、NPO等手引書やマニュアル等を作成しているが、認知されていない。 ● ボランティアを希望する人たちを資金的に支援するしきみを検討する必要がある。 ● 復興期の長期的な支援のための資金支援のしきみを考える必要がある。
連携・協働の観点から	<ul style="list-style-type: none"> ● 都道府県単位で、行政とボランティア団体等が普段から連携し、防災や災害時の対応などを検討が必要である。各地域の動向を把握しておく必要もある。 ● 平時から発災時を意識して、連携が図られるための場や協働した訓練の実施が必要。
ボランティアを支援する企業や個人、ドナーの立場から	<ul style="list-style-type: none"> ● 企業が資金支援以外の支援について検討しておくほか、様々な事例の周知が必要。 ● 義援金、支援金など資金支援のしきみに関する周知が不十分。 ● 企業は業種によって、資金提供や支援の仕方にも違いがある。様々なパターンの検討が不足。

※詳細は、別紙「課題の整理」のとおり

9

【災害時における課題】 ※ダイジェスト これまで検討会で指摘があったもの

観点	課題
個人ボランティアに関する観点から	<ul style="list-style-type: none"> ● ボランティアバスなどボランティアを希望する個人が参加しやすい環境整備が不十分である。
ボランティア団体に関する観点から	<ul style="list-style-type: none"> ● 被災者の課題が多様化しており、十分に対応できない場合がある。 ● 被災者の主体性を引き出すエンパワメントの視点・認識が不十分。
災害VC運営の観点から	<ul style="list-style-type: none"> ● 運営主体を社協が担っていることの限界やそれに対する方策。 ● 発災直後にボランティアコーディネーターがすみやかに現地入りできる整備が必要。
連携・協働の観点から	<ul style="list-style-type: none"> ● 連携の対象となる団体などの理解が不十分。 ● 各セクターの代表者による情報共有会議や、災害対策本部との連携等が必要。
ボランティアを支援する企業や個人、ドナーの立場から	<ul style="list-style-type: none"> ● 企業が資金支援以外の支援の方策が不明確。パートナーとなるNPOが限られている。 ● 寄付者の想いと現場の活動にズレがないか、確認する必要がある。

※詳細は、別紙「課題の整理」のとおり

10

担い手ごとの 課題と解決の糸口のイメージ（1）



個人、
個人有志グループ

【課題】

- ・ボランティア活動への参加を希望する個人が参加しやすい環境や条件が不明確。
- ・「防災」「ボランティア」は敷居が高く、難しいと思われる。等

【解決の糸口】

- ・「防災」のエッセンスが含まれた気軽に取り組める働きかけが必要。
- ・きっかけづくり、受け皿づくりを考える。
- ・身近な、誰でもできる取組があると関わりやすい。
- ・職場や学校などの理解があると関わりやすい。等

11

担い手ごとの 課題と解決の糸口のイメージ（2）



災害支援に取り組む団体
(NPO等)

【課題】

- ・活用できる助成制度が限定的。
- ・行政の理解や支援が得られにくい。
- ・各組織間の連携の必要性について理解が不足。
- ・取組が広がらない、アプローチ先がわからない。等

【解決の糸口】

- ・都道府県域でのネットワークを強化できるとよい。
- ・行政の理解を促進するための情報があるとよい。
- ・連携事例、モデル的な取組を示すと取り組みやすい。
- ・同じ悩みを持つ人たち同士が情報交換できるとよい。等

12

担い手ごとの 課題と解決の糸口のイメージ (3)



ボランティア活動を支える
団体(社協等)

【課題】

- ・災害ボランティアセンターの運営経験、担い手の育成が不十分。
- ・様々な知見、ノウハウが十分に認知されていない。
- ・ボランティアを希望する人たちを資金的に支援するしくみを検討する必要がある 等

【解決の糸口】 ※(2)と一部重複

- ・都道府県域でのネットワークを強化できるとよい。
- ・連携事例、モデル的な取組を示すと取り組みやすい。
- ・資金支援の様々な事例整理から、新しいしくみを検討できるとよい。
- ・同じ悩みを持つ人たち同士が情報交換できるとよい。 等

13

担い手ごとの 課題と解決の糸口のイメージ (4)



行政

【課題】

- ・連携の対象となる団体などの理解が不足。
- ・災害時の成功事例、失敗事例の共有、情報提供が不十分。
- ・地域でどのような団体があり、発災時にどのような活動が展開されるか知られていない。 等

【解決の糸口】 ※(2)と一部重複

- ・都道府県域でのネットワークを強化できるとよい。
- ・連携事例、モデル的な取組を示すと取り組みやすい。
- ・同じ悩みを持つ人たち同士が情報交換できるとよい。
- ・行政職員同士が情報交換する機会や相談先があるとよい。

14

担い手ごとの 課題と解決の糸口のイメージ (5)



【課題】

- ・日常からのNPO等と企業の情報交換・交流が少ない。
- ・義援金、支援金など資金支援のしくみに関する周知が不十分。
- ・ボランティア休暇制度などの支援制度に関する認識が不十分である。等

【解決の糸口】

- ・様々な実例、相談先などを情報があると取り組みやすい
- ・具体的な社内の取組方、進め方などがわかるとよい
- ・支援(資金提供等)の意義、効果などがはっきりしているとよい 等

15

平成28年度の進め方

- ・平成28年度は、5回程度実施を想定
- ・優先課題への対応の検討、関連調査の進捗報告・結果共有、成果物(提言)の内容検討など

【第3回で検討する事項】

- ・ 想定される優先課題 (案)
 - － 防災に資するボランティアの裾野を広げる方策
 - － 防災に資するボランティア活動の支援策
 - － 防災に資するボランティア活動の担い手間の連携 等
- ・ 関連調査の内容 (案)
 - ① 平時のボランティア活動に関する取組事例調査
 - ② ボランティア活動の裾野拡大に関する事例調査

16

平成28年度のスケジュール（案）

	検討事項	関連する資料・調査等
第1回	・テーマ:企業の参加や関わり方	・企業の取組整理 ・ゲストスピーカーによる発表
第2回	・テーマ:ボランティア活動の支援策	・支援策の整理 ・ゲストスピーカーによる発表
第3回	・テーマ:防災のエッセンスと取り入れた平時のボランティア活動・担い手の裾野拡大	・調査企画、関連事例の整理 ・ゲストスピーカーによる発表
第4回	・テーマ:各担い手間の連携	・現状整理 ・ゲストスピーカーによる発表
第5回	提言案のとりまとめ	・提言(案)

※テーマなどは第3回検討会で協議、回数も状況に応じて追加検討

17

成果のイメージ

- 想定される担い手ごとに現状や課題、取組む方向性などをまとめる
 - 日常の取組に、「防災」のエッセンスを取り入れた取組を促す
 - ボランティア活動を支える人材、しくみの強化を促す
- 想定される担い手
 - 国民（個人）
 - 防災・災害支援に取組む団体（NPO等）
 - 日頃ボランティア活動に取組む団体（様々な分野）
 - 専門機関・団体（土業関係等）
 - 行政
 - 企業 等
- 成果（提言）のみならず、提言の活用方法（具体的な働きかけ方や広報手段等）なども検討する

18